

千葉県感染症発生動向調査情報

2022年 第44週 (10/31-11/6) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		44週	43週	42週	40週
小児科		18	18	18	18
眼科		5	5	5	5
インフルエンザ*		28	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数

定点	感染症名	千葉県					千葉県
		注意報	10/31-11/6	10/24-10/30	10/17-10/23	10/10-10/16	10/24-10/30
			44週	43週	42週	41週	43週
小児科	RSウイルス感染症		0	2	4	6	97
	咽頭結膜熱		0	0	0	0	4
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	3	3	4	35
	感染性胃腸炎	↓	42	55	47	45	313
	水痘		0	1	0	0	15
	手足口病	◎	19	9	32	38	73
	伝染性紅斑		2	0	1	0	2
	突発性発しん		4	6	6	7	28
	ヘルパンギーナ		1	2	4	1	6
	流行性耳下腺炎		3	0	0	0	7
インフル	インフルエンザ (高病原性鳥インフルエンザを除く)		0	0	1	0	1
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		1	1	2	2	17
基幹定点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	0	0	0	0
	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	1	0	0	2
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患: 383 例 ※ 新型コロナウイルス感染症371例は数のみ

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	50歳代	IGRA検査	E型肝炎	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出
	女性	70歳代	病原体の分離・同定		男性	50歳代	
	女性	80歳代	病原体の分離・同定等	侵襲性インフルエンザ菌感染症	女性	10歳未満	病原体の分離・同定
	男性	80歳代	病原体の分離・同定		女性	10歳未満	
腸管出血性大腸菌感染症	男性	20歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	80歳代	病原体の分離・同定
梅毒	女性	30歳代	血清抗体の検出	水痘(入院例)	女性	10歳未満	抗原の検出
新型コロナウイルス感染症	男女	0歳代-100歳代	病原体遺伝子の検出等	-	-	-	-

・第44週は、結核4例(123)、腸管出血性大腸菌感染症1例(29)、E型肝炎2例(12)、侵襲性インフルエンザ菌感染症2例(3)、侵襲性肺炎球菌感染症1例(9)、水痘(入院例)1例(2)、梅毒1例(42)、*新型コロナウイルス感染症371例(145,100)の発生届があった。

※ ()内は2022年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

※ 新型コロナウイルス感染症の発生届数は、届出対象の見直しにより、9/26(第39週)から65歳以上及び入院を要する者等の4類型及び死亡した患者(当該感染症により死亡したと疑われる者を含む。)に限定されています。

定点当たり報告数 第44週のコメント

<感染性胃腸炎>

前週より減少し2.33となった。過去10年の同時期と比べると少なく、1歳及び3歳で最多。区別の発生状況は、若葉区(7.50)で最多で、同区の1歳及び3歳で最も多く発生報告があった。

<手足口病>

前週より増加し1.06となった。過去10年の同時期と比べるとほぼ平均レベルで、1歳で最多。区別の発生状況は、若葉区(5.50)で流行発生警報開始基準値(5.00)を上回り最多で、同区の1歳及び2歳で多く発生報告があった。

■ 「過去10年との比較グラフ」及び「区別の発生グラフ」はWebSiteでご覧いただけます。

- ・ 過去10年との比較グラフ

<https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph2022.pdf>

- ・ 区別の発生グラフ

https://www.city.chiba.jp/hokenfukushi/iryoeisei/khoken/kkagaku/idsc/documents/graph_ward2022.pdf